



～在ハンガリー日本大使館～

2009年7月

## — Monthly Review —

全 21 頁

## 政治・経済月報(6月号)

## 政治・内政

- 7日に実施された欧州議会選挙では、最大野党フィデスが圧勝、極右政党ヨツビクも初の選挙で3議席を獲得し躍進した。

## 政治・外交

- ハンガリー・オーストリア国境開放20周年式典には、欧州各国から要人が出席した。
- バイナイ首相は就任後初めて中東を訪問、バラージュ外相は米国国務長官、露外相と相次いで会談した。
- スロバキア国会が採択したフィデス党首への非難決議と公用言語に関する改正法案は、当地メディアで大きく取り上げられ、両国関係には依然火種が絶えない。

## 経済・社会

- 5月の新車販売は前年同月比で64%下落し、5,297台となった。
- 中央統計局は、第1四半期GDP成長率が速報値の-5.8%を下回り-6.1%（共に暦年調整後）となったと発表。
- 中央統計局は、2009年4月までの12ヶ月間で、名目賃金は3.5%、実質賃金は2.7%、それぞれ上昇したと発表。
- ハンガリー中央銀行の金融協議会は、基準金利を9.50%に据え置いた。
- 欧州委員会は、ハンガリーのユーロ参加のためのGDP比3%の財政赤字基準遵守の期限について、2年間延期して2011年とするよう、EU経済財務理事会に提案することを決定。
- 経済協力開発機構（OECD）は、ハンガリーについて、2009年中は深刻な景気後退となり、2010年から緩やかに回復するとの見通しを発表。
- 29日、国会は、バイナイ政権が進めてきた経済危機管理プログラムで2010年施行分としていた税制改正法案、不動産税法案、育児手当等改革法案を可決。

|              |        |                         |                             |
|--------------|--------|-------------------------|-----------------------------|
| ○インフレ率       | (y/y)  | (2009年5月)               | 3.8% (食品:7.2% エネルギー:8.5%)   |
|              |        | (2008年平均)               | 6.1% (食品:10.2% エネルギー:12.7%) |
| ○賃金上昇率       | (y/y)  | (2009年4月)               | 3.5% (民間:5.3% 公的:-0.9%)     |
|              |        | (2008年平均)               | 7.5% (民間:8.4% 公的:6.2%)      |
| ○鉱工業生産       | (y/y)  | (2009年4月)               | -27.1%                      |
|              |        | (2008月平均)               | 1.1%                        |
| ○失業率(15-74歳) |        | (2009年3月～<br>2009年5月平均) | 9.8%                        |
| ○政策金利        |        | (2009年5月)               | 9.5% (現状維持)                 |
| ○10年国債利回り    |        |                         | 10.15%                      |
| ○為替相場        | (月中平均) |                         | ・1ユーロ = 280.58 フォリント        |
|              |        |                         | ・1ドル = 200.27 フォリント         |
|              |        |                         | ・1フォリント = 0.48 円            |

《今月のトピックス》

- |        |
|--------|
| I. 内 政 |
|--------|

  1. 欧州議会選挙の結果
  2. 欧州議会選挙後の各党の動き
  3. ペーチ国会議員補欠選挙
  4. ショーヨム大統領による育児手当等改正法案の差戻し
  5. 最高裁判所長官をめぐる動き
  
- |         |
|---------|
| II. 外 交 |
|---------|

  1. シュタインマイヤー独外相のハンガリー訪問
  2. 対スロバキア関係をめぐる動き
  3. V4議長国の引き継ぎ
  4. バラージュ外相とクリントン米國務長官の会談
  5. グアタナモ監獄囚人受け入れの正式要請
  6. バイナイ首相のイスラエル及びパレスチナ訪問
  7. 鉄のカーテン崩壊20周年記念式典
  8. バラージュ外相とラヴロフ露外相の会談
  
- |          |
|----------|
| III. 経 済 |
|----------|

  1. オフショア取引への30%の源泉徴収税の政府計画
  2. Ecostat社による信頼感指数が第1四半期に改善
  3. マレブ航空がコスト削減とレイオフを計画
  4. 5月の新車販売は64%急落
  5. ハンガリー、ヨーロッパ魅力度調査で12位
  6. 第1四半期の貿易黒字が僅かに上方修正へ
  7. 農業省が干ばつに対する不可抗力条項を宣言
  8. 4月の鉱工業生産は前年比25.3%減（速報）
  9. 第1四半期GDP成長率は前年同期比-6.1%（改定値）
  10. 4月も大幅な貿易黒字が継続（速報値）
  11. 消費者物価上昇：対前年同月比3.8%（5月）
  12. GKIによる消費者信頼指数予測：上昇傾向
  13. マグナ社がオペルのエンジン生産をハンガリーに移動する可能性
  14. 経済危機によりハンガリーを離れる外国人労働者
  15. 財務省、6月の一般政府負債を2,761億HUFと予測

16. ウィズエアー、エアバスA320を50機発注
17. KSH、4月の名目賃金上昇率を3.5%と予想
18. KSH、4月の民間被雇用者数の減少は緩和と予想
19. 金融協議会、基準金利を据え置き
20. 財相、月末までに共同融資総額から140億ユーロ引出し完了と発言
21. 経済刺激プログラム、期待値に届かず
22. 2009、2010年のインフレ率予想
23. EC、ハンガリーの財政赤字基準遵守の期限を2011年まで延長
24. OECD、ハンガリー経済の回復は2010年と予測
25. GKI、GDPは来年第2又は第3四半期に回復と予想
26. Ecostat、2009年のGDP収縮・インフレ予想を見直し
27. ハンガリーの第1四半期の経常赤字の急落
28. ハンガリーの1人当たりGDP購買力はEU27カ国中22位
29. 失業率：9.8%（2009年3月～5月）
30. 税制改正法案・不動産税法案可決及び育児手当等改革法案再可決
31. ハンガリーと日本、特許付与手続き加速化に関する合意に署名

#### IV. その他

- ・ 6月の選挙・支持政党に関する世論調査
- ・ 6月の為替・金利動向
- ・ 主な出来事

## I. 内 政

### 1. **欧州議会選挙の結果**（7日）

7日に実施された欧州議会選挙の各党別得票率及び議席獲得数は以下の通り（括弧内は前回選挙結果）。投票率は36.28%であった。

|                              |        |      |        |
|------------------------------|--------|------|--------|
| フィデス（E E P所属）                | 56.37% | 14議席 | （12議席） |
| 社会党（P E S所属）                 | 17.37% | 4議席  | （9議席）  |
| ヨッビク（所属会派未定）                 | 14.77% | 3議席  | （0議席）  |
| ハンガリー民主フォーラム（MDF）（E P P所属）   | 5.30%  | 1議席  | （1議席）  |
| 自由民主連盟（S Z D S Z）（A L D E所属） | 2.16%  | 0議席  | （2議席）  |
|                              | 合計     | 22議席 | （24議席） |

### 2. **欧州議会選挙後の各党の動き**（13日ー）

#### （1）フィデス

13日、フィデス党大会において、オルバーン党首がほぼ全会一致で再選され、4人の副党首も再選された。オルバーン党首は、フィデスの目標は次期国会総選挙で単独過半数を獲得することである、他党と連立を組むことなく自由に政権を担うことができる歴史的なチャンスであり、ジュルチャーニ＝バイナイ政権と妥協することはないと述べた。

#### （2）S Z D S Z

フォドル党首は、13日に開催されたS Z D S Z全国評議会において辞意を表明した。新党首は7月12日に開催される臨時党大会にて選出される予定。なお、欧州議会選挙後、S Z D S Zではグストシュ副党首やホルン執行委員等の多数の党幹部が党役職の辞意を表している。

#### （3）社会党

7月4日に臨時党大会を開催し、今後の方針や党運営等につき議論することとなった。

#### （4）MDF

20日の党大会では、ダーヴィド党首に対する信任投票が実施され、66%

の信任票を得て同党首が再任された。しかしながら、欧州議会選挙後の10日、ダーヴィド党首が欧州議員候補者リストに反対していたホック議員、ペットコー議員、カトナ議員の3名を除名したことを皮切りに、重鎮のボロシュ元首相が党幹部宛に絶縁状を送付（13日）、グレジャMDFチョングラード県本部長を始めとする複数の党員が離党するなど、党内の混乱が報じられている。

### 3. **ペーチ国会議員補欠選挙**（7-21日）

（1）欧州議会選挙と同日の7日、ペーチにおいて、トゥレル元国会議員（元ペーチ市長）の議員資格喪失に伴う国会議員補欠選挙が実施されたが、投票率が31%となり、必要とされる50%を下回ったため無効となり、第2回投票が実施されることとなった。

（2）21日に実施された第2回投票では、必要とされる投票率は25%であったものの、実際の投票率は18%に留まったため、選挙は再度無効となった。なお、各候補者の得票率は以下のとおり。クーヴァーリ候補（フィデス・KDNP）：77%、トート候補（社会党）：17%、パランチャ候補（ヨッビク）：6%。

（3）これにより、4ヶ月以内に選挙が再度実施されることが確定した。候補者も新たに立候補する必要がある。

（4）今次補欠選挙は、交通事故により意識不明となっているトゥレル元国会議員が議員資格を失うことが2月にシゲトヴァール裁判所にて確定したことから、実施されたもの。

### 4. **ショーヨム大統領による育児手当等改正法案の差戻し**（11日）

（1）11日、ショーヨム大統領は、5月25日に国会で採択された育児手当給付期間の3年から2年への短縮等に関する法案に署名せず、再審議を求めて同法案を国会に差戻した。

（2）同大統領は、署名拒否の理由として、母親には子供が3歳になるまで自宅にいるか、パートタイムあるいはフルタイムで働くかを選択する自由があり、職場復帰を強制することがあってはならない、同法案は育児手当給付期間の短縮により、子供が3歳になるまで自宅にいるべきと考える母親に多大な犠牲を強いるものである旨説明した。

（3）本件差戻しにより、国会は再審議を行い再度採決を行う義務があるが、必ずしも改正案を修正する必要はない。なお、大統領は、再採決の結果可決さ

れた法案に対しては、署名拒否の権限を有さない。

## 5. **最高裁判所長官をめぐる動き** (15 - 22日)

(1) 15日、ショーヨム大統領によって最高裁判所長官に推薦されていたバカ・アンドラーシュ候補(元欧州人権裁判所裁判官)に対する投票が国会で行われ、賛成184、反対108と必要とされる3分の2の多数を得られず否決された。投票前、与党社会党及び野党フィデスは、バカ候補に賛成票を投じる旨宣言していたが、秘密投票であったため、誰が反対したのかは不明。

(2) 16日、ショーヨム大統領は再度バカ氏を推薦、22日に国会において採決に付され(秘密投票)、賛成309票、反対36票(無効22票)にてバカ候補の最高裁長官就任が決定した。昨年6月以降異例の空席となっていた最高裁長官選出は、5回目の投票でようやく決着がついた形となった。なお、バカ候補に対する投票は今回が3度目。

## II. 外 交

### 1. **シュタインマイヤー独外相のハンガリー訪問** (2日)

#### (1) 概要

2日、シュタインマイヤー独外相はハンガリー・オーストリア間の国境開放20周年を記念するためハンガリーを訪問し、外務省に設置された記念板の除幕式に参加したほか、バイナイ首相及びバラージュ外相と会談を行った。

#### (2) 首相、外相との会談

(イ) バイナイ首相との会談では、経済危機が両国関係に及ぼす影響などにつき協議が行われた。首相は両国経済関係発展と社会、教育、学術分野での協力強化に努めたい旨述べたほか、ダイムラー社の投資の意向を歓迎した。

(ロ) バラージュ外相との会談では、欧州選挙後のEU情勢につき協議がなされたほか、バラージュ外相から、次期ハンガリーV4議長国の優先課題として南北のエネルギー・パイプライン連結、西バルカンのEU加盟支援、東方パートナーシップの成功がある旨説明がなされた。会談後に両外相は、ドイツ語圏外の唯一のドイツ語大学であるアンドラーシ・ジュラ・ブダペストドイツ語大学の重要性を確認し、今後も同大学に両国政府が支援を続けていく旨の声明文を発出した。

## 2. **対スロバキア関係をめぐる動き** (3 - 30日)

### (1) オルバーン党首発言に対する非難決議 (3日)

3日、スロバキア国会は、欧州議会選挙期間中のオルバーン・フィデス党首の発言(注)は、近隣諸国の主権を無視し、スロバキアの領域的一体性を疑問視させ、中欧の不安定化を招くとする批判決議を可決した。

これに対し、同日、ネーメト国会外交委員長(フィデス)は、スロバキア政府の反ハンガリー・キャンペーンは欧州議会選挙へ向けスロバキア過激派を動員しようとするものと発言した。また、バラージュ外相は、論争は欧州議会選挙のキャンペーンの一部に過ぎないと述べたうえ、23日、決議文中に恰も国会政党党首が過激派を煽っているかの記述があることは事実にしており、またスロバキア外務省が同決議文を同地EU・NATO加盟国外交団に送付したことは両国間取りきめに反する行為であったとする声明を発出した。

### (2) 言語法改正に対するハンガリー側反応 (30日)

30日、スロバキア国会で可決された公用言語に関する法律改正案に対し、ハンガリー外務省は、ハンガリー系住民の権利を制限するものとして遺憾の意を示す声明を発出した。同法は公的言語をスロバキア語に統一する事を目標として、公的機関における言語使用をスロバキア語に統一し、他言語を併記する場合はあくまで副次的に留めるよう規定しており、違反者への罰金規定も設けている。

外務省声明では、約束された同法に関する事前の両国間協議が行われなかったこと、結果的に同法律が両国間の基本条約や欧州評議会の地方・少数言語欧州憲章等の国際規約と相容れない内容を含むものとなったことに遺憾の意が示された。また、同法に関しては、ネーメト国会外交委員長(フィデス)が、「少数民族の言語使用に関して罰金を定めた第二次世界大戦後の欧州で初の法律」と批判したほか、レンドヴァイ社会党党首も同法がマイノリティーの言語使用を制限するものであり欧州の規範に反するとする旨述べた。

(注) 多くのカルパチア盆地のハンガリー人を民族代表としてブリュッセルに送るとする趣旨の応援演説を指す。詳細は本月報5月号参照。

## 3. **V4議長国の引き継ぎ** (3 - 4日)

3日、バイナイ首相はポーランドで開催されたV4首脳会合に参加し、7月から始まる議長国のプログラムを発表したほか、4日にはトゥスク・ポーランド首相、フィッシャー・チェコ首相と会談、午後にはクラクフで開催された社

会主義崩壊20周年記念式典に参加した。

バイナイ首相はハンガリー議長国期間の協力の重点領域として、エネルギー政策、経済危機管理、気候変動、東方パートナーシップ支援、西バルカンの欧州統合支援を挙げ、特にエネルギー政策に関し、EUの共通エネルギー政策が採択されていない現在、ナブッコ・パイプライン問題などにおけるV4各国の協調が重要である旨述べた。

#### 4. **バラージュ外相とクリントン米国務長官の会談** (11日)

(1) 11日、バラージュ外相は米国を訪問し、外相就任後初めてクリントン国務長官と会談した。会談に際し、同外相は、バイナイ首相発オバマ米大統領宛ての会談実施を申し入れるレターをクリントン国務長官に手交した。

(2) 会談後プレスクラブで実施された記者会見において、バラージュ外相は、ハンガリー内政の主要課題としてロマ問題に触れ、ロマの貧困と社会統合の遅れが、反ロマを喧伝する極右勢力の台頭の背景にあるとし、この(反ロマ)感情への対処は政府の責任である旨述べた。また、外政上の課題としては、重要な欧州委員ポストを確保すること、ナブッコ計画推進のためEU内の大国の支持を取り付けることを挙げたほか、対露関係に関し、良好な関係を維持しつつその投資の透明性と予見性を確保するよう注視する必要がある旨述べた。

#### 5. **グアタナモ監獄囚人受け入れの正式要請** (18日)

18日、フリード米グアタナモ特使がハンガリーを訪問し、グアタナモ収容所閉鎖に伴う囚人の受け入れ可能性検討を正式に要請した。同特使と会談したヴァールコニ外務専門次官は、ハンガリー政府は受け入れ可能性につき検討する準備を進めているが、決定に当たっては国会政党間での協議が不可欠である旨伝えた。

#### 6. **バイナイ首相のイスラエル及びパレスチナ訪問** (23-24日)

##### (1) イスラエル訪問 (23-24日)

##### (イ) 訪問概要

23-24日、バイナイ首相はイスラエルを訪問し、ペレス大統領、ネタニヤフ首相らと中東和平交渉や二国間関係、研究開発協力等につき協議したほか、同地のヤド・バシェム(ホロコースト)博物館を訪問した。今次訪問は、両国

国交回復20周年を期に実施されたもの。

(ロ) ネタニヤフ首相との会談

首相会談では、ハンガリーEU議長国（2011年前半）期のEUイスラエル首脳会合実施等につき協議が行われた。バイナイ首相は、ネタニヤフ首相によるパレスチナ国家承認発言を歓迎する旨述べたほか、ハンガリーにおける極右政党の伸長につき、政府は彼らの主張とは距離を置くが、その動きは反ユダヤ主義を背景とするものではない旨説明した。

(ハ) ペレス大統領との会談

バイナイ首相は、イスラエルは中東地域で最も親しい友人であると述べ、ハンガリーには中欧最大のユダヤ人コミュニティが存在すること、近年両国の経済関係が飛躍的に拡大していること等につき述べた。これに対し、ペレス大統領は、ハンガリーからの投資の更なる拡大を願う旨述べたほか、経済危機のため保護主義や民族主義が伸張していることに憂慮の念を示した。

(2) パレスチナ訪問（24日）

24日、バイナイ首相はパレスチナを訪問し、ラマラにてファイヤード首相及びマルキ外相と会談した。バイナイ首相は、中東和平交渉への関心の深さにつき述べた上、ガザ地区再建支援などを例に、今後もパレスチナの民主主義整備へ向け実質的な支援を続けていきたいとの意向を表明した。また、バイナイ首相は、ベツレヘムに名誉総領事を置くことを発表した。

ファイヤード首相は、今次訪問がEUの中東和平交渉支援を広く知らしめる機会となると述べたほか、会談では二国間関係や文化・学術協力、中東和平交渉などの全ての議題でバイナイ首相と一致した立場を確認した旨述べた。

## 7. **鉄のカーテン崩壊20周年記念式典**（26－27日）

(1) 国境での記念式典（26日）

26日、ブルゲンラント州（オーストリア）主催により両国国境（ショプロン／クリンゲンバッハ及びフェルトゥーラーコシュ／マルガレーテン）にて1989年6月の両国間鉄条網撤去20周年を記念する式典が開催され、ショーム大統領及びフィッシャー・オーストリア大統領をはじめ、シュピンドルエッガー・オーストリア外相、ニースル・ブルゲンラント州首相らが参加した。両大統領は、「ヨーロッパピクニック記念公園」（注）にて、20年前の事件の歴史的重要性につき演説を行った。

(2) ブダペストにおける記念式典（27日）

(イ) 国会での記念集会

27日午前、国会前コシュート広場にて、欧州及び米国併せて30カ国以上

# Republic of Hungary

---

の賓客を招いて「鉄のカーテン崩壊20周年記念式典」の開会式が行われ、その後国会議場において記念会議が開催された。開会式ではショーヨム大統領が、1989年の両国外相による国境鉄条網切断が、その後の中欧諸国家独立と統一ドイツ復活を準備した象徴的事件であったとする旨の演説を行った。また、記念会議では、フィッシャー・オーストリア大統領、ケーラー・ドイツ大統領、ハロネン・フィンランド大統領、トゥルク・スロベニア大統領、メルツ・スイス大統領、フェアホイゲン欧州委員会副委員長、コモロウスキ・ポーランド国会議長らが、それぞれ演説を行った。

## (ロ) 国立オペラ座でのガラ・コンサート

午後7時、国立オペラ座にて開催されたガラ・プログラムでは、バイナイ首相が歴史的イベントとその後の体制転換、現在の経済危機への対応につき演説を行ったほか、フィッセル・チェコ首相が鉄のカーテン崩壊以後の欧州の一体性と自由を賞賛する演説を行った。

## (ハ) 各国要人との会談

式典に際し、ショーヨム大統領はトゥルク・スロベニア大統領と会談し、ガスパイプライン及び送電網連結に関する意見交換を行った。一方、バイナイ首相は米国連邦議会代表団と会談し、中東和平や経済危機につき協議したほか、ドンブロウスキス・ラトビア首相、フィッセル・チェコ首相、フェアホイゲン・欧州委員会副委員長等とEU問題やエネルギー問題を中心に協議を行った。

(注) 89年8月に東独国民がハンガリーを経由して西側に脱出、ドイツ東西の壁崩壊の契機となった事件を記念して作られた公園。

## III. 経 済

### 1. オフショア取引への30%の源泉徴収税の政府計画 (1日)

オスコー財務相は、2010年税制パッケージにおいて、ロイヤリティ、法的サービス、金利支払いを含むハンガリーから海外オフショア会社に対するすべての移転に対して30%の源泉徴収税を政府が計画していることを明らかにした。オスコー財務相は翌日の経済協力審議会の会合において、個人及び企業が、税金がハンガリーの3分の2未満の海外から得た収益に対して課税されると述べた。

## 2. **Ecostat 社による信頼感指数が第 1 四半期に改善** (2 日)

5月の大企業100社の信頼感指数は4月から4%上昇し64.5%に、消費者の信頼感も8.2%上昇して72.5%となった。一方、中小企業の信頼感指数は62.5%で、2月から8.2%上昇した。大部分の国内企業によるビジネスへの期待は直近12ヶ月で大きく低下したが、直前四半期、特に前月の改善傾向にある数値により負のトレンドは緩和されつつあると Ecostat 社はコメントした。

## 3. **マレブ航空がコスト削減とレイオフを計画** (3 日)

マレブ航空のガウスCEOは、年5～8%の運営コスト削減と大幅のレイオフを計画していると述べた。今年150名を削減し、年末には従業員が1322名となる計画である。

## 4. **5月の新車販売は64%急落** (3 日)

5月の新車販売は前年同月比で64%下落し、5,297台となった。また、ハンガリー自動車輸入協会(MGE; Hungarian Association of Vehicle Importers)のジェーゼー会長氏によると、1月から5月までの販売は前年同期に比べて約半分に落ち込み、7月から8月にかけて販売は更に落ち込むことが予想され、その修正は10月から11月になる見込みであると述べた。

## 5. **ハンガリー、ヨーロッパ魅力度調査で12位** (5 日)

Ernst & Young の「2009年ヨーロッパ魅力度調査(European Attractiveness Survey for 2009)」で、ハンガリーは昨年の9位から12位となった。ハンガリーは2008年に100件の大型投資プロジェクトを登録していたが、前年比26%減で、リスト中の国で最大の下落となった。ハンガリーはポーランド(5位)、ルーマニア(6位)より順位が低かったが、チェコ、イタリア、スウェーデンより上位だった。雇用創出面ではハンガリーは2008年に1万1,659名の雇用を創出し5位となった。

## 6. **第1四半期の貿易黒字が僅かに上方修正へ** (4日)

中央統計局によると、ハンガリーの第1四半期の貿易黒字は6億1900万ユーロで、3月の貿易黒字は5億300万ユーロでそれぞれ速報値から1000万ユーロ上方修正された。3月も輸出、輸入共に前年同月比下落し続けているが、下落が始まった10月以降初めて下落幅が緩やかとなった。

## 7. **農業省が干ばつに対する不可抗力条項を宣言** (5日)

農業省は、ハンガリー全土にわたる2009年干ばつに対する不可抗力条項を宣言し、農民が干ばつ被害に対する補償を受けられるようにした。申請は2009年10月20日まで受付け。本年2月3日施行の新法では、補償を申請する農民は補償システムに加入していなければならず、収穫の30%を喪失した農民は80%の補償を申請することができる。

## 8. **4月の鉱工業生産は前年比25.3%減(速報)** (5日)

中央統計局は、5日に速報として4月の鉱工業生産が前年同月比-25.3% (暦調整後)、-27.1% (調整前) と発表した。

アナリストは予想より大幅な落ち込みは不況が長いことを意味しておりと述べた。CIB Bank のバルタ氏はヨーロッパ各国政府による新車販売インセンティブにも拘わらず4月の自動車セクターが落ち込んだことは失望的であるとのコメントし、前年同月比ベースでは年間を通じて下落する見込みであると述べた。

## 9. **第1四半期GDP成長率は前年同期比-6.1%(改定値)** (9日)

中央統計局によると、第1四半期GDP成長率は速報値の-5.8%を下回り-6.1% (共に暦年調整後) となった。四半期比較では速報値の-2.3%から-2.5% (共に季節調整後) に、年度比較では速報値の-4.7%から-5.4% (共に暦・季節調整後) に改定された。

アナリストは、ハンガリーの景気後退は第1四半期に底打ちしておらず、第2四半期も悪化が続くとの予測を示した。

## 10. **4月も大幅な貿易黒字が継続（速報値）**（9日）

中央統計局は、速報として、4月の貿易収支が429.7百万ユーロの黒字であることを発表した。2008年4月の貿易黒字は48.9百万ユーロだった。1月から4月までの貿易黒字は1,049百万ユーロで、前年同期は331百万ユーロであった。

## 11. **消費者物価上昇：対前年同月比3.8%（5月）**（11日）

中央統計局（KSH）は、5月の消費者物価上昇が対前年同月比3.8%になり、4月の3.4%から上昇したと発表した。5月の消費者物価は、対前月比1.5%上昇しており、4月の0.8%に引き続いての上昇となった。

## 12. **GKIによる消費者信頼指数予測：上昇傾向**（12日）

GKI（政府寄りシンクタンク）は、5月に4ポイント上昇していた季節調整済みの消費者信頼指数が、6月に引き続き4ポイント改善し、-64.3ポイントになったと発表した。調査は、EUの支援により行われた。

## 13. **マグナ社がオペルのエンジン生産をハンガリーに移動する可能性**（13日）

カナダのマグナ社は、経営難のGMの欧州部門の買収契約が決まれば、オペル向け自動車エンジンの生産をドイツからハンガリー・オーストリアに移動することが可能であると報じられた。GMのPowertrain-Magyarországは、オペルの1.6L及び1.8Lエンジンを製造する唯一のメーカーである。

## 14. **経済危機によりハンガリーを離れる外国人労働者**（17日）

地域労働者センターのデータ及び専門家の予測により、経済危機が始まって以降に1万1千人から1万2千人の外国人労働者（不法滞在を含む）が就職難のためにハンガリーから退去しており、さらに4千人の外国人労働者が夏の終わりまでに国外に出て行く見込みであると報告された。

## 15. **財務省、6月の一般政府負債を2,761億HUFと予測** (17日)

18日、財務省は、同国における6月のキャッシュフローベースでの一般政府負債が2,761億HUF(対GDP比1.1%)となるとの見通しを明らかにした。1月から5月までの実績は5,687億HUF(対GDP比2.2%)であり、これは年間目標値の57.2%に相当する。

## 16. **ウィズエアー、エアバスA320を50機発注** (18日)

格安航空ウィズエアー(Wizz Air)社は、エアバスA320を50機発注すると発表した。これで同社保有の航空機は132機となる。同社は現在、ポーランド、ハンガリー、ブルガリア、ルーマニア、ウクライナ及びチェコに合計11の拠点を持ち、130の渡航都市を有する。

## 17. **KSH、4月の名目賃金上昇率を3.5%と予想** (19日)

中央統計局(KSH)は、2009年4月までの12ヶ月間で、名目賃金は3.5%、実質賃金は2.7%、それぞれ上昇したと発表した。2009年1月から4月の上昇率は名目賃金が昨年同期比1.1%、実質賃金が同0.8%であった。

## 18. **KSH、4月の民間被雇用者数の減少は緩和と予想** (19日)

中央統計局(KSH)の発表によると、4月における従業員数5人以上の民間事業者におけるフルタイム労働者数の減少は緩和に転じ、公共部門の労働者数は3月に比べて上昇しており、両部門を合わせた労働者数は5,100人増加し、265万700人となった。フルタイム労働者数が今年初めての増加となったのは、政府予算拠出による公共事業の拡大を反映するものとみられる。

## 19. **金融協議会、基準金利を据え置き** (23日)

22日、ハンガリー中央銀行の金融協議会は、基準金利を9.50%に据え置いた。これは同協議会が実質経済及びインフレ予測、ならびに最新の金融市場の動向を踏まえて決定したもの。協議会は、今年のハンガリー経済について、

深刻な落ち込みとなりつつあるとの従前の予測を維持している。

## 20. **財相、月末までに共同融資総額から140億ユーロ引出し完了と発言** (23日)

オスコー財務相は、議会の予算委員会において、ハンガリー政府に対するIMF等による200億ユーロの融資のうち、6月末までに140億ユーロの引き出しを完了する見込みであり、140億ユーロのうち、80億ユーロを利用し、残る60億ユーロはリザーブする旨述べた。

## 21. **経済刺激プログラム、期待値に届かず** (23日)

ヴァルガ国家経済開発相は、2008年11月に発表された総額1兆4千億HUF(50億2千万ユーロ)の中小企業向け景気刺激パッケージについては、企業が進出先市場を失い、将来の戦略を立てられなくなっている中、支援策の実施に重大な欠点があるため、変更が必要であるとの考えを述べた。

## 22. **2009、2010年のインフレ率予想** (23日)

GKI(政府寄り経済シンクタンク)は、2009年の平均インフレ率について、3月のレポート時の3.5%から大幅に修正し、5%になるとの予想を示した。GKIはまた、GDPの収縮率に関しても6.5%としており、こちらも3月時点の予想値(4~5%)を修正。

また、経済調査会社のKopint-Tarkiは、最新の経済予測において、2009年と2010年の年間平均インフレ率を、それぞれ5.2%、5.5%とした。これは、3.7%としていた同社による前回3月における経済予測を引き上げたもの。

## 23. **EC、ハンガリーの財政赤字基準遵守の期限を2011年まで延長** (24日)

欧州委員会(EC)は、ハンガリーのユーロ参加のためのGDP比3%の財政赤字基準遵守の期限について、2年間延期して2011年とするよう、経済財務理事会(ECOFIN)に提案することを決定した。同委員会は、延期の理由として、世界的な経済危機に起因する特異な状況を挙げ、他のメンバー国に対しても類似のステップを提案している。

## 24. **OECD、ハンガリー経済の回復は2010年と予測** (24日)

経済協力開発機構（OECD）は、ハンガリーについて、2009年中は深刻な景気後退となり、2010年から緩やかに回復するとの見通しを発表した。同機構のレポートは、今期、ハンガリーにおける失業率は2桁に達し、2009年は10.7%、2010年は11.7%となると予想。7月からの付加価値税及び物品税の増税、及び最近のフォリント安のため、消費者物価のインフレ率上昇も見込まれている。

## 25. **GKI、GDPは来年第2又は第3四半期に回復と予想** (25日)

GKI（政府寄り経済シンクタンク）のヴェルテシュ社長は、ハンガリーのGDPについて、2009年の第3四半期に最大の収縮を記録した後、2010年の第2又は第3四半期に上昇し始めるだろうと述べた。同氏によれば、雇用に対する税負担軽減、予算削減及び年金制度改革を含む政府の税制改革により、2009年から2010年のハンガリーの財政収支は受け入れ可能な程度まで改善される見込み。

## 26. **Ecostat、2009年のGDP収縮・インフレ予想を見直し** (25日)

25日、経済調査機関Ecostatのベヨー・ディレクターは、ハンガリーの2009年のGDPについて、3月発表時の4.1%を見直して6.5%の収縮とし、同様にインフレ率については3月発表時の3.4%を変更して4.9%となると述べた。また、同氏によれば、2009年に消費は対前年比-6.2%となる一方、投資は11.4%、輸出は16.2%、輸入は19%、それぞれマイナスとなる見通し。

## 27. **ハンガリーの第1四半期の経常赤字の急減** (26日)

ハンガリーの第1四半期の経常赤字及び資金需要が、昨年同期及び2008年第4四半期と比較して激減していることが、アナリストにより予測された。ハンガリーの第1四半期の経常赤字は、昨年同期の16億50百万ユーロ、2008年第4四半期の25億84百万ユーロに対し、10億ユーロを下回っていると見られる。

## 28. **ハンガリーの1人当たりGDP購買力はEU27カ国中22位** (27日)

欧州統計局が最近発表した1人当たりGDP購買力の第1予測によると、ハンガリーの1人当たりGDP購買力はEU27カ国中22位だった。これはGDPの2008年速報値を元に計算されたものである。ハンガリーの購買力基準（PPS）による1人当たりGDPは、EU27カ国平均の62.9%であった。

## 29. **失業率：9.8%（2009年3月～5月）** (29日)

中央統計局（KSH）は、2009年3月から5月までの平均失業率が9.8%だったと発表した。2月から4月までの平均の9.9%に比べて下がっているものの、前年同期の7.7%に比べると急上昇している。

## 30. **税制改正法案・不動産税法案可決及び育児手当等改革法案再可決** (29日)

国会は、バイナイ政権が進めてきた経済危機管理プログラムで2010年施行分としていた税制改正法案、不動産税法案、育児手当等改革法案を可決した。主な内容は次のとおり。

- (1) 個人所得税
  - ・500万Ftまでは17%、500万Ftを上回る部分は32%
  - ※改正後は課税基盤に雇用主負担の社会保険料も含まれることになる。
- (2) 社会保険料等
  - ・社会保険料の雇用主負担を32%から27%へ引き下げ
  - ・従業員1人当たり固定金額を納めるEho（健康寄与料）の廃止
- (3) 現金以外の福利厚生に対する課税
  - ・特別軽減税率として25%：余暇券、食事券、通勤定期
- (4) 物品税の引き上げ
  - ・軽油、たばこ、その他アルコール飲料など物品税の引き上げ
- (5) 不動産税の導入
  - ・0.25%・・・3000万Ftまで
  - ・0.35%・・・3000～5000万Ft
  - ・0.5%・・・5000万Ft以上
- (6) 育児手当等改革
  - ・2010年5月1日以降に生まれる子供への育児手当の給付期間を3年

から2年に短縮

- ・家族手当の支給年齢上限を23歳から20歳に引き下げ

### 31. **ハンガリーと日本、特許付与手続加速化に関する合意に署名** (30日)

ハンガリー特許庁は、ハンガリーと日本が特許出願の迅速化についての合意に署名したと発表した。

本合意は、ヴェンゼル・ハンガリー特許庁 (MSZH) 長官と鈴木・日本特許庁長官の署名により締結された。8月3日より、両国間の特許審査ハイウェイ (PPH) 試行プログラムが開始される。PPHは、特許庁間で情報を共有することにより特許審査手続を加速化することを定める二国間合意。

## IV. その他

### 《6月の選挙・支持政党に関する世論調査》(注)

(1) 支持政党の変遷 (確実に投票に行くと回答し、いずれかの政党を選択した者の支持政党)

|                          | (4月) | (5月) | (6月) |
|--------------------------|------|------|------|
| (与党)                     |      |      |      |
| 社会党 (MSZP):              | 21%、 | 21%、 | 19%  |
| (野党)                     |      |      |      |
| フィデスーハンガリー市民連盟 (Fidesz): | 65%、 | 67%、 | 66%  |
| 自由民主連盟 (SZDSZ):          | 3%、  | 2%、  | 1%   |
| ハンガリー民主フォーラム (MDF):      | 2%、  | 3%、  | 2%   |
| キリスト教民主国民党 (KDNP):       | 1%、  | 0%、  | 0%   |
| (非国会政党)                  |      |      |      |
| ハンガリー正義・生活党 (MIEP):      | 1%、  | 0%、  | 0%   |
| ヨッビクーハンガリーのために:          | 4%、  | 4%、  | 10%  |
| その他政党:                   | 3%、  | 3%、  | 2%   |

(2) 質問事項: 仮に今週日曜日に総選挙があるとすればどの党に投票するか (質問者全員よりの回答)。

|            |       |
|------------|-------|
| (与党)       |       |
| 社会党 (MSZP) | : 12% |

# Republic of Hungary

(野党)

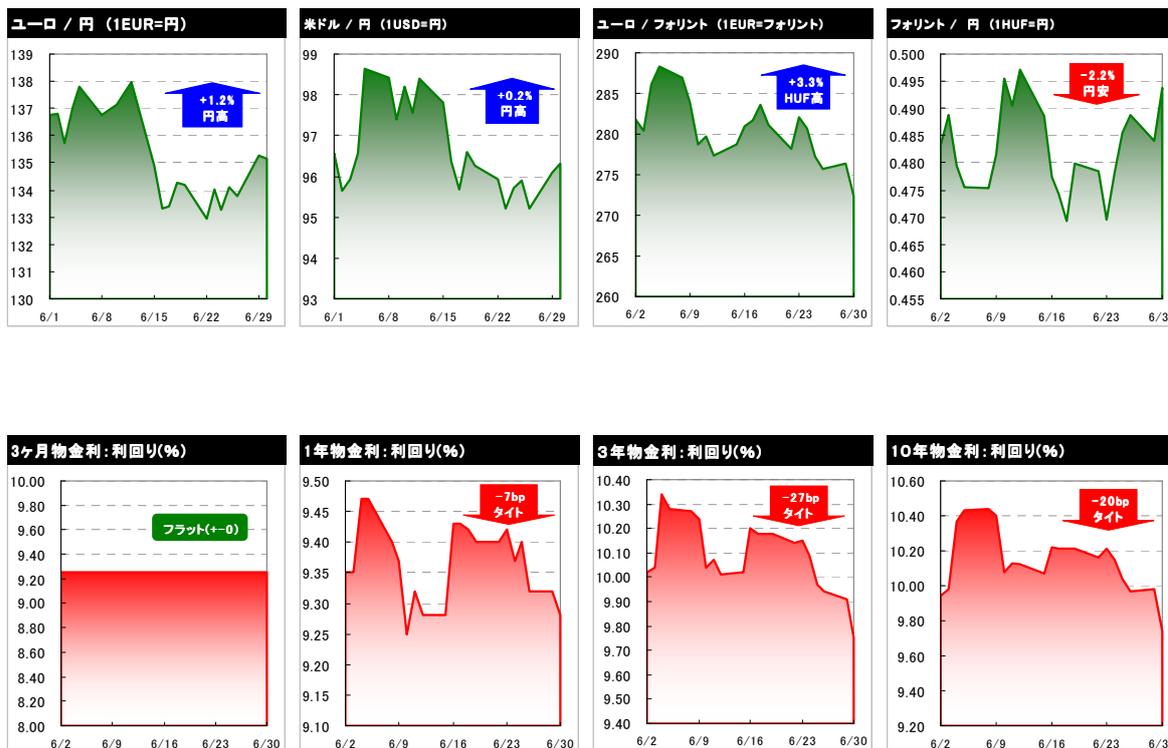
|                         |       |
|-------------------------|-------|
| フィデスーハンガリー市民連盟 (Fidesz) | : 44% |
| 自由民主連盟 (SZDSZ)          | : 1%  |
| ハンガリー民主フォーラム (MDF)      | : 2%  |
| キリスト教民主国民党 (KDNP)       | : 0%  |

(非国会政党)

|                    |       |
|--------------------|-------|
| ハンガリー正義・生活党 (MIEP) | : 0%  |
| ヨッビクーハンガリーのために     | : 7%  |
| その他政党:             | : 3%  |
| わからない、投票しない        | : 34% |

(注) 世論調査会社ソнда・イプソス社の世論調査結果(6月18-25日データ収集、サンプル数: 1500人)。

## 《6月の為替・金利動向》



# Republic of Hungary

## 《6月の主な出来事》

| 日  | 内政  | 日     | 外政   |
|----|---|-------|--|
| 7  | ・欧州議会選挙が実施され、フィデスが圧勝。   | 2     | ・シュタインマイヤー独外相、当地訪問。金融・経済危機につきバイナイ首相と協議。            |
| 7  | ・ペーチ国会議員補欠選挙が実施されるも、必要投票率に到達せず無効となる。  | 3     | ・ラムスセン欧州社会党党首、当地訪問。バイナイ首相等と会談したほか、社会党欧州選挙戦を応援。     |
| 10 | ・MDF、国会議員3名を党籍より除名。   | 3     | ・スロバキア国会、オルバーン・フィデス党首の欧州議会選挙戦中の「民族主義的言動」を非難。       |
| 10 | ・SZDSZ執行委員4名が辞任。  | 3-4   | ・バイナイ首相、V4首脳会談参加（於ポーランド）。議長国を引継ぎ式に参加し、議長国プログラムを発表。 |
| 11 | ・ショーヨム大統領、育児手当等に関する改革法案を国会に差し戻し。  | 8     | ・韓正上海市長、当地訪問。研究開発協力等につきバイナイ首相らと協議。                 |
| 13 | ・フィデス党大会が開催され、オルバーン党首が再選される。  | 10    | ・バラージュ外相、米国訪問。クリントン国務長官と安全保障やエネルギー面の共通課題につき協議。     |
| 13 | ・SZDSZ全国評議会が開催され、フォドル党首が辞意を正式に表明。   | 11-12 | ・ショーヨム大統領、イタリアで開催されたアライオロス・グループ大統領会合に参加。           |
| 15 | ・バカ最高裁長官候補が国会にて否決される。   | 12    | ・バラージュ外相、フランス訪問。クシュネール外相らと経済危機への対応などにつき協議。         |
| 16 | ・ナジ・イムレ元首相再埋葬20周年式典開催。  | 16    | ・バラージュ外相、国会外交委員会で在外公館統廃合計画につき発表。                   |
| 17 | ・ショーヨム大統領、再度バカ氏を最高裁長官に推薦。   | 16    | ・カルミ＝レ・スイス外相、当地訪問。バラージュ外相と両国外務省間の協力関係強化等につき協議。     |
| 17 | ・極右活動家のブダハージ・ジュルジがテロ及び殺人計画の容疑で逮捕される。  | 18    | ・米国のフリード・グアンタナモ特使が当地を訪問し、囚人受け入れを正式に要請。             |
| 18 | ・ブダペスト市裁判所、オルバーン党首他フィデス幹部がハンガリー・イスラエル秘密合意に署名したとの記事がヨッビク地方誌に掲載された件につき、ヨッビクに対して謝罪広告命令と各人につき20万フォリントの賠償命令。 | 23-24 | ・バイナイ首相、イスラエル及びパレスチナ訪問。両国要人と中東和平や経済協力等につき協議。       |
| 18 | ・ボロシュ元首相発MDF宛の書簡がリークされる。  | 24    | ・サーイェル欧州議員（フィデス）、欧州人民党副党首に選出される。                   |
| 20 | ・MDF党大会が開催され、ダーヴィド党首が信任される。   | 26-27 | ・鉄のカーテン崩壊20周年記念式典の開催。                              |
| 21 | ・ペーチ国会議員補欠選挙第2回投票が実施されるも、必要投票率に達せず無効となる。  | 27-28 | ・バラージュ外相、ギリシアでOSCE外相会合に参加。サイドラインでラヴロフ露外相と会談。       |
| 22 | ・国会にて最高裁長官にバカ候補が選ばれる。   | 30    | ・スロバキアで言語法改正案可決を受け、外務省は少数者の権利侵害につながるとして抗議声明を发出。    |
| 27 | ・ヨッビクが党大会を開催。党規が改変され、サボー氏が全国評議会議長に選出される。  |       |  |
| 29 | ・国会でバイナイ改革プログラム（税制改正法案、資産税法案、育児手当等改革法案）が可決される。  |       |  |

## Embassy of Japan in Hungary

1125 Budapest Zalai ut 7. Hungary  
TEL :+36-(06)-1-398-3100

E-Mail

政務関係 : [political@japanembassy.hu](mailto:political@japanembassy.hu)

E-Mail

経済関係 : [economic@japanembassy.hu](mailto:economic@japanembassy.hu)

E-Mail

広報文化関係 : [culture@japanembassy.hu](mailto:culture@japanembassy.hu)

E-Mail

領事関係 : [consul@japanembassy.hu](mailto:consul@japanembassy.hu)